

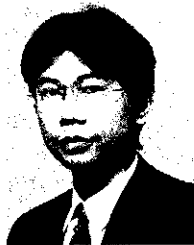
5ð'ö ¥ å j Ü î ° í É Þ ÿ Õ « °*•7È h S4 b g •*•, ' ö+
Shear Capacity of CFT Column and Precast Wall Structure

¾ î 7o(Takashi Iwasaki) ' , % ? (Shinya Inaoka) § V /œ µ(Yukio
Murakami) ã#ã *” (Koji Morita)

0[" :

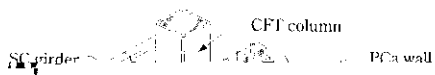
の剪断耐荷性能*

Shear Capacity of CFT Column and Precast Wall Structure

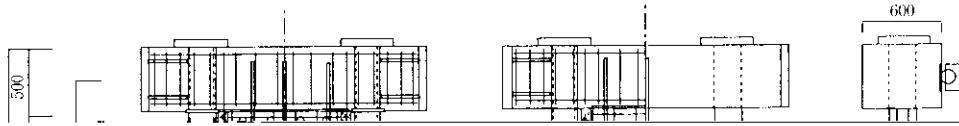


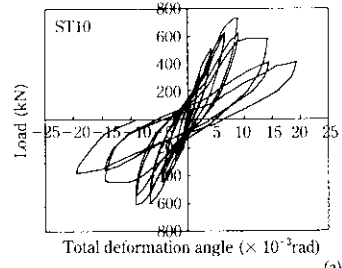
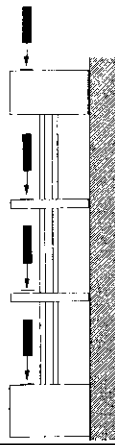
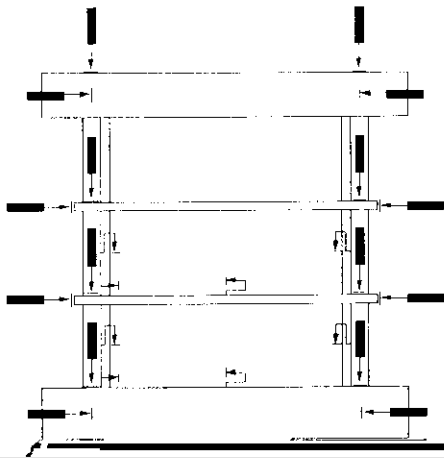
要旨

中高層集合住宅を対象に開発した CFT-PCa 耐震壁構造は、柱にコンクリート充填鋼管柱 (CFT) を用い、戸境壁にプレキャスト鉄筋コンクリート耐震壁 (PCa 耐震壁) を用いている。3 層縮小モデルによる繰り返し曲げ剪断実験を、壁に埋め込んだプレート梁と柱との接合部の隙間をコンクリートで充填したタイプと、定着筋を溶接した T 形鋼を壁に埋め込んで柱のガセットと T 形鋼をボルト接合

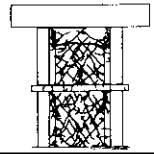
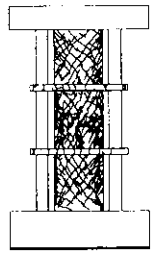
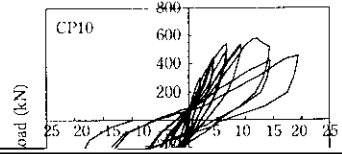


めた後、隙間は同じく型枠を組んで、スラブと同時にコンクリート
を打設して固める。図は、CFT柱とPC壁の接合部を示している。





(a) ST10



張降伏し始める。

(5) CP30

ST30と同様に、 1×10^{-3} で剪断クラックが観察され、 5×10^{-3} で通し筋が降伏し始める。その後、 10×10^{-3} で接合部が破断した。

4.4 接合部挙動

4.4.1 離間変形

図 4.4.1 は、図 4.1 の図 4.1.1 の接合部を拡大したときの離間変形を示している。

れた。その後、 7.5×10^{-3} で通し筋が降伏し始め、 10×10^{-3} で

関係を示している。これらを見れば、 2.5×10^{-3} 程度の、変形の

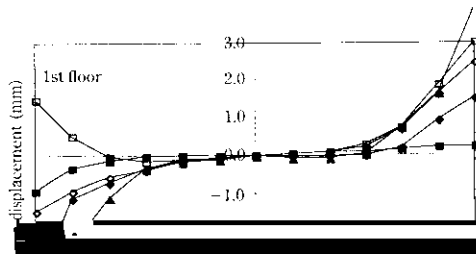
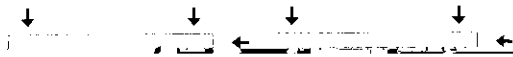


Table 4 Initial stiffness and cracking strength

	Initial stiffness		Exp. Cal.	Cracking strength Qscr (kN)
	Exp. (kN/cm)	Cal. (kN/cm)		
ST10	666	874	0.76	198
CP10	689	873	0.79	197
CH10	698	897	0.78	216
CP10	689	873	0.79	197



$$+ \tan \theta (1 - \beta) t_w \cdot l_w a \cdot \alpha_1 \cdot \alpha_2 \nu F_c / 2 \dots \dots \dots (6)$$